



自然観察

No.123

2017.10月

目次

・第528回 NACS-J 自然観察指導員講習会 帯広の森で開催～自然観察と保護の輪の広がりを期待して～	2
・観察部からのお願い	3
・森、水辺の生き物の観察・採集に夢中になった子供達～初の開催となった『親子夏休み自然体験』～	4
・紋別岳地方研修会報告～標高差による植物の分布を学ぶ～	5
・特別報告「自然」と「経済」の共生を	6
・会費の早期納入についてのお願い	7
・連載 石狩川左岸河口砂嘴の地形変化(1)	8
・ウオッチングレポート	11
・参加者の声	14
・2017年フォローアップ研修会開催のご案内	15
・事務局だより・連絡先	16



準絶滅危惧種 エゾナキウサギ のんびり日向ぼっこ

第 528 回 NACS-J 自然観察指導員講習会 帯広の森で開催 ～自然観察と保護の輪の広がり期待して～

9 月 30 日～10 月 1 日にかけての 2 日間、帯広の森はぐく一むを会場にして第 528 回 NACS-J 自然観察指導員講習会が開催されました。秋晴れの好天に恵まれ、37 名の参加者が「自然の見方・伝え方」を学びました。

十勝地方で開催されるのはちょうど 20 年ぶりで、遠くは茨城県から、また地元十勝からは 16 名が受講しました。

1 日目

9 時半開講式。3 人の講師、清末幸久さん、秋山幸也さん、日本自然保護協会の福田博一さん、それに横山武彦会長をはじめ協議会と地元のスタッフあわせて 10 名が紹介されました。



10 時から早速野外での実習。森を見てスケッチをしながら、自然を見る目や観察方法をまなびました。その後 3 班に分かれて森の中に入り、様々な視点で森を観察しました。また落ち葉や土の中の生物を採集し、多様な生物の世界があることを実感。

午後からは講義で、自然保護の理念や指導員の役割、自然観察会の運営などについて学び、1 日目のスケジュールを終えました。

宿泊所は少し離れた帯広市の研修センターで、車で移動となります。夕食の後は交流会。参加者同士、スタッフも含めて今後のつながりを作る大事な時間です。1 人 1 分の自己紹介でアピールし、交流しました。

2 日目

朝一番のオプション観察会は、アリーナの裏手の河畔林を観察しました。向かう道のシラカバの根本に大きなベニテングダケがによつきり。林に入ってからキノコやケヤマウコギ、ユキザサの実などを観察しました。

2 日目のメインは参加者自身で行う 5 分間のミニ観察会。午前中は 3 人の講師それぞれがおこなうさまざまな自然観察を体験し、自分の観察会のテーマや進行



を考えました。そして午後からはいよいよ



本番。指導員の腕章を巻いて、新指導員の誕生です。初めての観察会は現会員の皆さんも緊張感とともに思い出深いものではないでしょうか。37 名全員が、無事指導員として登録されました。また当会にも 14 名が入会されました。



最後になりましたが、お二人の講師の先生方、準備から当日の運営と講師も担当された日本自然保護協会の福田さん、会場を提供していただき色々とお気遣いいただいたはぐく一むの皆さま、宿泊所の帯広研修センターの皆さま、そして横山会長を始め運営をお手伝いいただいた理事の方々、地元指導員スタッフの皆さま、加えて受講生の皆様に心より感謝申し上げます。

(中村修一)

帯広の森は市民の手で植樹され、育ってきた森。その中心施設であり、自然観察や森づくりの拠点となっているはぐく一むで実施できたことは、大変意義深いことだと思います。これをきっかけに自然観察の輪が広がり、自然保護へとつながっていくことを願っています。



観察部からのお願い

観察部では、全道各地の皆さんから来年度（2018年度）の観察会企画を広く募集します。今年度観察会予定表に準じ、「月日」・「観察地」・「テーマ」・「集合場所・時刻」・「交通機関」・「連絡先」などの各項目を記載し下記宛て郵送、またはメールにてお送りください。

なお、保険適用（観察会集合場所から解散場所まで）の関係上、参加者を観察会開催地まで指導員の車に同乗させることは、原則として認めておりませんので、企画立案に際しては集合場所等、ご留意願います。

募集期間は、1月末日までとし、観察部会にて日程調整などの検討を加えた上で、来年2月の理事会に提出する予定です。追加および訂正は2月上旬まで受付します。

観察部 山形誠一 〒064-0946 札幌市中央区双子山1丁目12-14

Mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp

森、水辺の生き物の観察・採集に夢中になった子供達 ～初の開催となった『親子夏休み自然体験』～

真夏の炎天下、森や水辺の生き物を観察・採集する子供たちの歓声が響き渡りました。

この催しは、8月6日(日)に札幌市南区白川にある札幌市北方自然教育園で行われた「親子夏休み自然体験」の時の様子です。

遠くは蘭越町から、また近くは札幌市から4家族12人(うち子供7人、大人5人)が参加しました。三澤英一実行委員長から「楽しく森、水辺の生き物を観察したり、採集しましょう」という挨拶の後、子供たちは昆虫網と虫かごをそれぞれ持って森の道に向かいました。

指導員が道すがら目立つ木々や花、昆虫などを判り易く紹介説明していきましたが、子供たちは興味のある生き物を見つけたら、立ち止まって熱心に観察したりしたため、予想外に時間がかかりました。

この後、水辺の生き物の観察に移り、園内にある池でトンボ類、魚類、水生昆虫類等を網で探し回って採集しました。お蔭で、ドジョウ、ヤゴ、マツモムシ、コオイムシ、モノアライガイ、サンショウウオなど様々な生き物を採集することができました。

昼食後、森、水辺で見た感じた生き物をビンゴゲームのスタイルで出し合うとともに、採集した水辺の生き物を観察用の水槽に入れて、子供たちが気



に入った生き物を画用紙に描きました。水槽には多種類の生き物がいましたが、何故かドジョウを描く子供が非常に多かったようです。

最後に子供たちに描いたスケッチを示してもらいながら、感想を一言ずつ話してもらって終わりました。

なお、今回の観察会は、昨年まで行っていた「滝野の集い」に替わる催しとして初めて行ったものです。

(村元健治)



感想文

1ねん いがらし かほ

わたしは、かんさつかいに、おにいちゃんとおじいちゃん、おばあちゃんといきました。もりでは、きょねんとことしのくりをひろいました。あかならのどんぐりがまるくてかわいかったです。むしをたくさんつかまえたかったです。いけでは、たにしやどじょうや、やごをつかまえました。たにしがすいそうのかべを、むにゅむにゅとうごいて、おもしろかったです。

さいごに、どじょうのえをかきました。つかまえたものは、いけにかえました。

紋別岳地方研修会報告 ～標高差による植物の分布を学ぶ～

長い間、千歳市「紋別岳」をフィールドとして観察会を開催してこられた、谷口指導員にお願いして、「秋の紋別岳」観察会の下見に便乗する形で企画された地方研修会。8月26日（日）に、札幌、恵庭、遠別町から6名が参加して無事終了しましたので報告いたします。

観察会はまずリスク管理から

好天に恵まれた支笏湖。湖畔に建つビジターセンター前に集合した6名の参加者を前に、今日の研修会の講師をお願いした谷口さんから、クマ、スズメバチ、ツタウルシなど、観察会を開催する際のリスク管理について説明がありました。また常に携帯している救急セットの中身を見せてもらい、足のツリに対応する内服薬があること、ハチなどに刺された際のポイズンリムーバー、さらにクマ撃退用のスプレーまで用意しているなど、観察会の場所や時季に応じた細かい気配りが必要なことを痛感させられました。



説明は基本的なことを

紋別岳登山口へ向かって歩き始めるとすぐに、道端の植栽や、ノリ面の植物などに参加者からの質問が続出、丁寧に対応してくれる谷口さん。また、よく似た植物の見分け方もタンポポとブタナの違い、ゲンノショウコとその他のフウロソウ科の植物の違いを例に、誰にでもわかるように基本的な部位の違い、眼で見て分かるような違いを選んで説明することが大切と話をされました。

今回研修会の行われる紋別岳は標高866m、標高250mの支笏湖湖面からは標高差約600m、頂上にアンテナ施設があるため、登山道は簡易舗装がされ比較的歩きやすいのですが、登山口から頂上まで6kmと、なかなか時間のかかる山です。



今回の研修会は、登山口をすぎてもオオイタドリ、ハンゴンソウ、タニタデ、キンミズヒキ、ミズヒキ、ハナタデ、クサコアカソ、ノリウツギ、ツルアジサイなど、多くの植物について、全員で和気藹々と話し合いながらとてもゆっくりとしたペースで進んで行くため、なかなか高さを稼ぐことが出来ません。

谷口さんからも「何でも質問してください。」「分からない時は分からないと言う。」「誰か知ってる人がいるかもれない。」「と、普段の観察会にも通じる心構えを教えられ、それならばと、日ごろ疑問に思っていたことなど、参加者からの質問が続きます。

研修会のテーマでもある標高差による植物の分布について、シラカンバ、ウダイカンバ、ダケカンバを例に説明を受け、樹皮や葉脈の違いからの見分け方を教わったところで、頂上までまだ3kmほどの距離を残して、すでに昼過ぎ。頂上での昼食をあきらめ、登山道の広がっている部分を探して、道端に座って食事しました。



天気には勝てないが…

昼食が終わる頃から急に、雲が厚くなり気温も下がり始めたように感じていると、雨が降り出してきました。非常に近いところで雷も鳴り始め、雨も強くなってきた為、頂上まで行くことはあきらめ引き返すことに。山の天気は変わりやすいとは言うものの、あまりの急変ぶりに、驚くとともに、貴重な体験をしたようで、ちょっと得をした気分になりました。そのまま湖畔まで下山し、バス待合所で解散。頂上までいけなかった分、予定より1時間ほど早くなりましたが、事故もなく無事、終了しました。

（山形誠一）

【特別報告】「自然」と「経済」の共生を

北海道芽室高等学校 森 秀夫

今年（2017年）の7月末、民間初の小型ロケットの打ち上げに日本中が注目したのは記憶に新しい。今までのJAXA（宇宙航空研究開発機構）主導の宇宙開発に民間企業のIST（インターステテクノロジズ）社が参入し、新たな宇宙ビジネスの幕開けとされた。これにより射場誘致に取り組んでいる十勝管内大樹町にとっては、新射場整備の話題が加速度的に進んでいくと思われる。

新射場が整備された場合の道内経済波及効果は年間267億円と試算されており、その効果をさらに拡大させるための方策も考察されている。その効果拡大のための見学客増加を見込んで、射場周辺に展望所設置等に絡むインフラ整備が必要であり、また老朽化した種子島や内之浦の既存施設の代替射場としての役割も大きいとされている。

この新射場整備検討の優位性とされているのが、『拡張余地のある広大な敷地』である。現在の大樹町美成にある多目的航空公園の面積が70haであるのに対し、隣接する射場予定地としては6000haまで拡張可能としている。この数値は後背地の当縁（とうべり）湿原360ha（札幌ドーム68個分の広さ）を見込んでのものと思われる。しかし、この当縁湿原は環境省の重要湿地（生物多様性の観点から重要度の高い湿地）として周辺の湧洞沼や長節湖とともに十勝海岸湖沼群として選定されている。

現在IST社のロケット射場は浜大樹原生花園に隣接している。浜大樹原生花園は浜大樹漁港の東側に位置し、海喰崖上の風衝地になっている。ここには、一面に広がるガンコウランが群落をつくっている。ガンコウランは高山植物であるため低地の海岸付近で群落をつくることは珍しい。また付近はセンダイハギ、フデリンドウやスズランに混じって、環境省レッドデータブックに掲載されているシコタンタンポポなどの貴重種も生育している場所である。

原生花園の西側にはカシワからなる広大な保安林が広がり、北側は今回のIST社の射場を経て当縁川が流れ込む低層湿原である当縁湿原へと続いている。

浜大樹原生花園の海蝕崖から眺める当縁湿原には、ハンノキの灌木が点在し、湿性植物のワタスゲ、ヒオウギアヤメ、クロユリ、タチギボウシ、モウセンゴケなどの生育がみられ、スゲの隙間にはミズゴケの群生地や準絶滅危惧種であるトキソウやヒメイチゲの可憐な花も確認できる。重要湿地に選定されている理由として、湿性植物の存在に加えて、個体数が減少しているタンチョウやチュウヒなど、そこに営巣する湿地性鳥類の繁殖地やヒシクイやマガンの渡来地としての役割も大きい。

このような自然環境として重要な浜大樹原生花園や当縁湿原は、前出のロケット射場の影響を受けている。打ち上げにともない関係車両が頻繁に往来し、今までにない轍が広がっている。自然に関心のない人々にとってここは、単なる「空き地」でしかないかもしれないが、多様な生物を育んでいる重要な場所なのである。

▶エゾマツムシソウ



▲周辺地図（十勝管内大樹町）



▲シコタンタンポポ



▲ヒメイチゲ



ロケット射場にともなう経済発展も大切ではあるが、そこに根付いてきた自然を蔑ろにしてはならない。そこでしか生きていけない動植物を保護し、後世に伝えていくことも我々にとって大切な役目なのである。

目先の経済効果ばかり求めるのではなく、特有な自然環境を踏まえた地域の発展を考えていくことが大切ではないだろうか。失った自然は二度と元には戻らないのだから・・・。



▲
ロケット射場（左）と周辺の轍〔浜大樹原生花園〕

参考文献

・大樹町晩成海岸原生花園植物調査報告書

伊藤浩司（北海道大学・昭和 48 年 2 月）

・翼が結ぶ重要生息地ネットワーク（IBA サイト）

日本野鳥の会ホームページ

・生物多様性の観点から重要度の高い湿地

環境省ホームページ

・北海道大樹町に新射場を整備した場合の道内経済波及効果

（株）日本政策投資銀行・北海道経済連合会（平成 29 年 5 月）

・大樹学 NEWS 平成 28 年度第 4 号〔町内自然探訪（浜大樹原生花園・当縁湿原）〕

大樹町小中高連携推進委員会第 1 部会（平成 29 年 2 月）

－会費の早期納入についてのお願い－

日頃から、当協議会の活動にご支援をいただきありがとうございます。

本会の活動は、会員の皆様から寄せられる会費を唯一の財政基盤としております。本会の運営をスムーズに進めるためにも、会費を早めに納入いただけますよう、宜しくお願いいたします。

・昨年度から年会費は、個人会員は 2000 円、家族会員は 3500 円になりました。

・すでに 29 年度分の会費を納入された方も含め、全員に振り込み用紙を同封しました。封筒宛名タックシールに納入状況を記載しておりますのでご覧ください。

・会員台帳と出納簿でチェックしていますが、もし間違いがあれば至急事務局もしくは会計までご連絡をお願いします。

・退会の申し出あるまでは会員です。本年度をもって退会される方は、29 年度までの会費を納入の上、事務局または会計担当までご連絡下さい。

郵便振替口座 02710－1－8768

会費振込加入者名 北海道自然観察協議会会計 杉本 泰子



【連載】

石狩川左岸河口砂嘴の地形変化

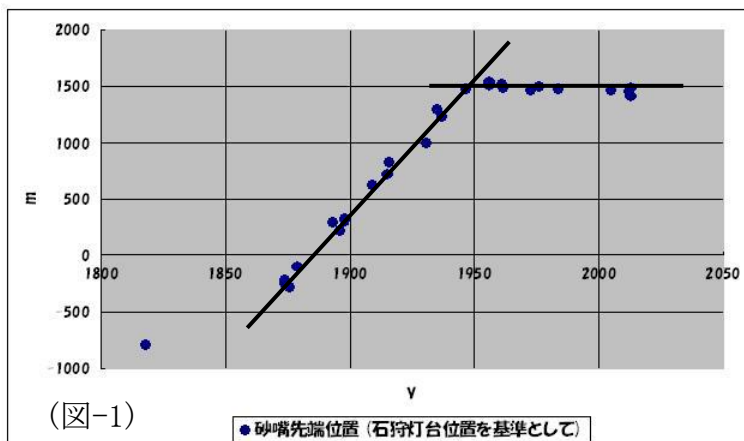
(1) 2009 年からの 8 年間の動き

ばんぐろ ねっと
【花 畔 ・ 網】 石 川 治

道内最大の河川石狩川は、その最下流部、石狩市矢臼場近辺で流れを西向きから北東向きへと大きく変える(最後の蛇行)。その後石狩湾の海岸線とほぼ平行に流れて河口に達する。海と川に挟まれて細長く伸びた地形は河口砂嘴と呼ばれる。

およそ 400 年前松前藩によりイシカリ場所が開設され、アイヌとの交易とサケ漁などで栄えてきた石狩市本町地区は、長さ 4km に及ぶ左岸河口砂嘴のほぼ中ほどに位置する。河口砂嘴は、イシカリ場所が置かれるはるか前から伸び続けてきたのである。

砂嘴の伸長を知る上において、明治期以前については 1821 年完成の伊能図くらいしか精確な資料は見当たらないが、明治期以降については地形図、空中写真ほかさまざまな資料が残されている。それらの資料から砂嘴先端の位置を読み取り石狩灯台との相対距離としてプロットしたのが(図-1)である。明治初期以降バラつきはあるもののほぼ一定の割合で伸び続けてきた砂嘴だが、昭和 20 年ころ(1940 年代)からは伸びることを停止している。昭和 10 年代以降に施工された 4 基の水制工により右岸の浸食が食い止められ、その結果として左岸砂嘴の伸長が抑止されたと考えられる。



伸び続けることは止まったといっても、先端地形は伸びたり縮んだり、右に行ったり左に行ったり、揺れ動き続けている。1 年のうちで 100m 以上姿かたちを変えることもあるのである。

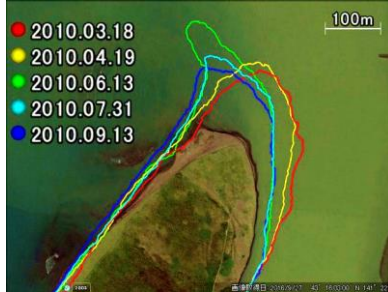
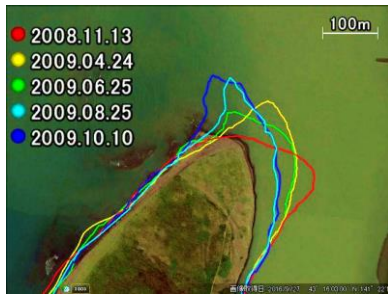
筆者は、2009 年以来夏冬問わず月 1 回以上 GPS ロガーを携行して、砂嘴先端部分の水際を歩く地形調査を続けてきた。それにより砂嘴先端の地形が、夏季には夏季の、冬季には冬季の、それぞれ特有な動きを見せるということが明らかになった。

2009 年から 2016 年までの 8 年間について、各年の夏季と冬季の地形変化を図とともに示してみたい。

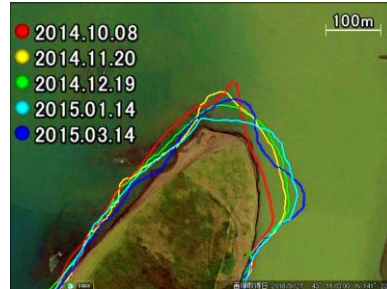
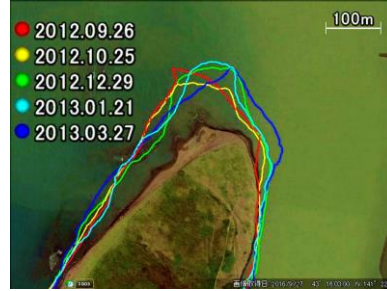
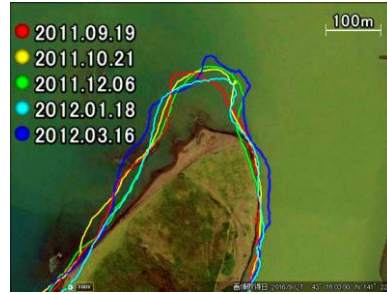
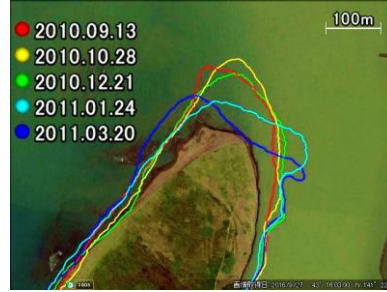
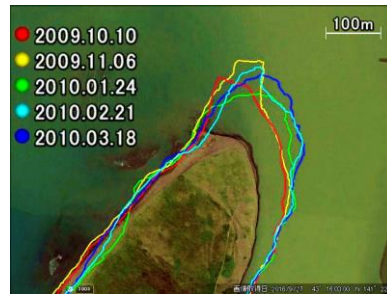
図の見かたについての注釈

1. 各年とも、左が夏季、右が冬季の汀線軌跡(地形変化)で、夏季、冬季とも 5 回のサンプルを抽出。
2. 夏季の始まりは、おおむね 3 月下旬。冬季の始まりは、8 月下旬から 10 月初旬と年によりややばらつきがある。
3. 夏季、冬季の最初のサンプルは、それぞれその直前の冬季、夏季の最後のサンプルと一致させてある。
4. 5 回のサンプルの線色は、各画像とも日付順に暖色から寒色へと変化させている。
具体的には、赤 ■ ⇒ 黄 ■ ⇒ 緑 ■ ⇒ 水色 ■ ⇒ 青 ■
5. 各年のコメントでは、便宜上見た目通り、川側を右、海側を左と表記する。

夏季



冬季



コメント

2009 年

夏季：典型的な右から左への動き
春の融雪、7月の大雨で川岸後退
漂砂もかなり流出。

冬季：典型的な左から右への動き
漂砂により堆積局面継続
年末の高潮で先端押される

2010 年

夏季：典型的な右から左への動き
5月融雪と大雨で川岸削られる
のち川、海とも平穏で先端伸びる

冬季：典型的な左から右への動き
先端扁平に押しつぶされて川幅
を狭めるようにせり出す

2011 年

夏季：典型的な右から左への動き
4月から5月融雪降雨で川岸後退
のち川、海とも平穏で先端伸びる

冬季：曖昧な左から右への動き
9月大雨による漂砂の影響か動き
が少ない

2012 年

夏季：曖昧な右から左への動き
4月末融雪で川岸後退

先端伸びるが大きな変化はない
冬季：動きは大きくないが着実に
左から右への動き
3月初めの高潮で全体に川側へ

2013 年

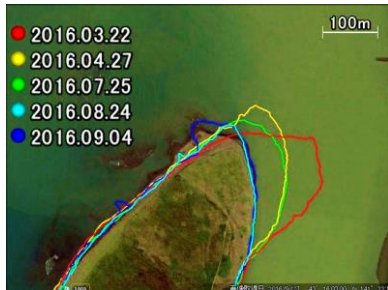
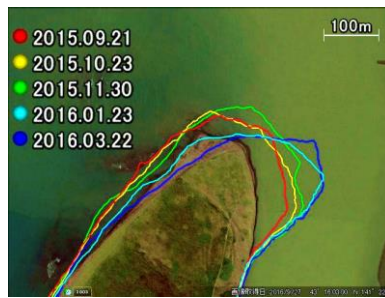
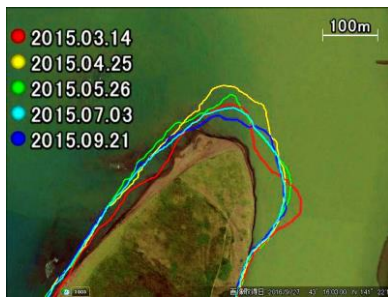
夏季：曖昧な右から左への動き
4月暴風と大雨で先端が突出
かなり特異な年

冬季：典型的な左から右への動き
先端も押しつぶされる
特有の強い冬型気圧配置が継続

2014 年

夏季：典型的な右から左への動き
4月大雨で川側浸食

9月沖合の島状の砂州が繋がる
冬季：典型的な左から右への動き
冬型気象条件による高潮の発生
川幅を狭める



2015 年

夏季：曖昧な右から左への動き
4 月に突出する特異なパターン
のち気象変化も乏しい

冬季：典型的な左から右への動き
強い冬型気象で川幅最も狭まる
海側汀線も著しく浸食を受け後退

2016 年

夏季：典型的な右から左への動き
4 月の融雪と降雨による浸食
8 月の 3 連続台風による大雨

冬季：見事な逆の動き(右から左へ)

大量の沿岸漂砂が堆積局面を迎え、冬に先端が成長するのは特異

まとめ

2016 年冬季を唯一の例外として、夏と冬とで正反対のパターンの動きが繰り返されていることがわかる。川側では、春の融雪、夏から秋の大雨による増水(激流)が川岸を削る。海側では、冬型気圧配置による強い北西風がもたらす高潮(高波)が海岸を浸食する。また、川から海へと流出した沿岸漂砂が、海が穏やかになると岸に寄せられて堆積する。浸食と堆積の繰り返しにより先端地形はあたかも、夏には川側から海側へ、冬には海側から川側へと揺れ動いているように見えるわけである。

しかしながら、夏冬とも気象条件は年により微妙に、あるいは大きく異なるから、地形変化も毎年違った顔を見せることになる。浸食は気象にほぼ即応するが、漂砂の挙動にはタイムラグを伴うので堆積はやや遅れて現れることが多い。

自然現象としての地形変化は気象条件の落とし子ともいえるが、生きもののようでもあって興味深い。近頃は地形変化をあらかじめ予測しながら観察におもむく。しかし地形変化にとって気象は、必要条件ではあっても必ずしも十分条件ではないことから、しばしば予測を裏切られる面白さもある。これからも体が動く限りは観察を続けようと思っている。

背景として利用させていただいた Google earth の画像取得日は、2016 年 9 月 27 日である。

石狩川左岸河口砂嘴についてより詳しくは、ホームページ【花畔・網】をご覧ください。

URL : <http://www.bannaguro.net/>

★石川 治氏のプロフィール

石狩市在住。退職後、10 年ほど前から居住地の「石狩」を発信し続けようとホームページ「花畔・網(ばんなぐろ・ネット)」を立ち上げました。石狩浜海浜植物保護センター運営委員会委員やいしかりガイドボランティアの経験も。現在は国土交通省の河川愛護モニターとして活躍中。石狩川河口砂嘴は今でも定期的に探索続行中。興味の赴くまま自由闊達な発信活動を展開しています。

【編集部より】

本報告に掲載されている写真はカラーなのですが、本会報では予算の関係上、白黒で掲載せざるを得ませんでした。但し、本協議会のホームページに掲載される会報では、カラーとなっていますので、カラーで見たい方はこちらのホームページをご覧ください。



小樽市 旭展望台観察会 2017/4/29

春一番の草花を訪ねて

穏やかな天気でした。
小樽商業高校から旭展望台に続く車道脇は、例年に比べて雪解けが早く、エゾエンゴサク、エンレイソウが顔を出し、オオウバユリは光沢のある葉を大きく広げていました。カタクリハムシも見つけることが出来ました。エゾイラクサの群落では、その名の由来が話題になりました。お目当てのカタクリ群落に到着してまず驚いたことは、ササの侵略でした。風倒木が目につき、明るい林、乾燥化が進行しているように見えました。もしこの先もササの侵略が続くようだと、寂しいなあと思います。

ました。

解散場所の小林多喜二碑前では、本間指導員による解説が恒例です。朗々と読み上げられる碑文を耳にし、深い感動に包まれました。観察会というのは、動植物以外の要素がとても大切だと思うのです。

思い思いの散策を楽しみ、スプリングエフェメラルの儚さと、植物の生命力に感動した観察会でした。

(岡部 実)

恵庭市 恵庭公園観察会 2017/5/13

春の緑につつまれて

恵庭公園では、雪残る3月下旬黄色い花粉を抱えたハンノキから始まる。4月カツラが赤くなり、足元にはフクジュソウ、ナニワズ、毛深いアズマイチゲやコンロンソウの芽出し。

そここのザゼンソウの中には、去年の秋から法衣を被り冬を越したものもある。やがてササが起き上がって、公園も私も忙しくなる。

観察会当日はカサマークが取れても肌寒い。散策路にニリンソウ、エンレイソウ3種、ネコノメソウ3種、セントウソウ、ホソバノアマナ。

ヤブニンジン、ワニグチソウはやっと蕾。花の終わったアズマイチゲは、栄養葉を広げ来年に備えている。そんな様子をワイワイ言い合いながら歩くのが何よりだが、参加者はどうだったか。

今年は1本の茎に花茎が2本のオオバナノエンレイソウあり。葉は不完全な4枚、花の変異は一方にのみ。この先どうなってゆくのか。ミドリニリンソウ、ヒメザゼンソウの話も忘れずに紹介できました。

(久瀧雅恵)

札幌市 平岡公園観察会 2017/5/14

梅林は、白梅が八分咲きで、来園者は多くいらしていますが、時々小雨が降り10℃と寒い！花はオオカメノキ・ヤマモミジ・エゾヤマザクラ・ミツガシワなど。今日の一番はキビタキがゆっくり5分間以上全員で見られ、その後ヤブサメの♀が…ラッキーでした。

来年からは、参加者の交通の便を考えて、5月20日以降にしようと思います。

(佐藤佑一)

石狩市 石狩海岸観察会 2017/5/20

春～初夏の花々と野鳥

好天に恵まれヒバリの声をずっと聞きながらの観察会でした。

石狩灯台は北海道では現存最古の灯台である。建造時は石狩川の河口にあったが、100年余りの間に河口は 1500 メートル程伸びて海岸草原の砂嘴を形成した。

開花植物は、イソスミレ、ハマハタザオ、ハマエンドウ、オオヤマフスマ、コウボウムギ、ヒメイズイなどを確認。シダ植物のハマ

ハナヤスリも芽を出し、小さな栄養葉を確認。イソコモリグモの入り口を糸で固めた巣穴も確認した。

鳥は、ヒバリ、ノビタキ、オオジュリン、アオサギ、ミコアイサなど。

5 月のハマナスの丘は、盛りだくさんの観察会でした。

(石岡真子)

旭川市 嵐山公園観察会 2017/5/21

旭川市内からちょっと郊外に出ますと、突しよう山や旭山公園、嵐山公園など多くの自然が残されている場所があります。嵐山公園での観察会は 6 年ぶりです。当日は晴れた空のもと出発、昼近くになると雨が降り出しましたが、春の自然を堪能することができました。

樹木は葉が茂りはじめ新緑の季節になりました。オニグルミには雄花が垂れ下がっています。足元にはオオタチツボスミレ、ニリンソウ、オクエゾサイシン、ネコノメソウ、フデリンドウなどがありました。一時間歩いて展望台に到

着。残念ながら大雪山連峰は見渡せませんでした。すがすがしい気持ちになりました。一人の指導員がシマヘビを手にとって解説をしてくれてみんなが注目です。またシウリザクラの樹にゴジュウカラの巣を見つけ、親鳥が餌をくわえて巣穴に入っていく様子をみんなで見守りました。参加者のみなさんはメモをしたり、質問をするなど、熱心に観察されていました。

(笠間邦裕)

小樽市 山中海岸観察会 2017/5/21

サンショウウオの池

サンショウウオの池は、だいぶ干上がっていて、あまり幼魚も見られず、夏草が思っていたより増えていて、帰りが大変苦労しました。ウルシもあって、まけた人もいたようです。

道も険しく反省しています。

海岸はおだやかで、山々が見えよかったです。

(広岡 賢治)

苫小牧市 初夏のウトナイ湖観察会 2017/6/3

少し風が強く寒い日でしたが、多くの人に参加者していただきました。

観察できた植物・動物・昆虫など

木本：コナラ・ミズナラ・ズミ・エゾノコ
リンゴ・ヤマウルシ・カンボク・ナナ
カマド・ワタゲカマツカ・ハリギリ・
ネグンドカエデ・イチイ・キャラボ
ク・チョウセンゴミシ

草本：ナズナ・ヒメスイバ・カモガヤ・オ
ニウシノケグサ・ケナシハルガヤ・オ
オスズメノテッポウ・イトアオスゲ・
ヒカゲスゲ・カワラスゲ・クサノオ
ウ・イブキヌカボ・キジムシロ・ミツ
バツチグリ・ベニバナイチヤクソウ・
シコタンキンポウゲ・ムラサキケマ
ン・オオアマドコロ・ヒメイズイ・シ
ロバナエンレイソウ・ハルザキヤマガ
ラシ・セイヨウタンポポ・エゾタンポ
ポ・オオヤマフスマ・マイヅルソウ・

ホガエリガヤ・マムシグサ・サッポロ
スゲ・ヒメシダ・クサソテツ・ヤマド
リゼンマイ・コウヤワラビ・ヒレハリ
ソウ・ヒメヘビイチゴ・エゾノヨロイ
グサ

鳥類：ウグイス (s)・センダイムシクイ
(s)・エゾセンニュウ (s)

昆虫：ユキムシの幹母・ハナムグリ・ゴミ
ムシの仲間・ヨシカレハ幼虫・アメン
ボ・アワフキムシ・子グモの集団・コ
モリグモ

爬虫類：エゾアカガエル♀

以上のものなどが観察することが
でき、参加者に楽しんでいただけた観
察会になりました。

(宮本健市)

小樽市 天狗山観察会 2017/6/11

自然の村周辺を歩く

小雨の中、遠くから来られた方がありました。
高速道路を造る道林道が走り、クマゲラや小
動物が逃げてきている様子で。とくにクマゲラ

の開けた穴が増えていました。

スミレ類が多く、原種のスミレも見られまし
た。

(広岡賢治)

札幌市 手稲山観察会 2017/7/29

夏のゲレンデを歩こう

集合場所のロープウェイ山麓駅は曇りで涼
しく、予定通り 9 時に山頂へ向けて出発しまし
た。イケマやツルアジサイとイワガラミの違い
など、つる植物をじっくり観ました。登りの女
子大回転コースは、2 月に冬季アジア大会の回
転コースが開催されたことを説明。開花してい
る花は、ヤナギラン、トリアシショウマ、ネジ
バナ、エゾアジサイ、ノリウツギ、イチヤクソ
ウなどで、果実はシラネアオイ、サンカヨウ、
オオバタケシマランなどでした。途中、石狩方
面の街並みの見えるところで休憩。11 時 20 分
ころ山頂に着きましたが、遠くの羊蹄山は雲の
中でした。各自休憩のあと、ケルンの前に集合。
下りはヤナギランとヨツバヒヨドリが満開の

シティビュークルーズコース、再び女子大回転
コースを經由して、ナチュラルコースへ。合流
したナチュラルコースでは、開花しているオオ
ウバユリ、これから咲くサラシナショウマ、果
実はヒロハツリバナ、オオツリバナ、エゾノレ
イジンソウ、ホオノキなどを観ました。参加者
の中には、チョウの幼虫を安全な登山道脇へそ
っと移す優しい人、ホオノキの葉を風車にして
遊んだことの思い出を話してくれる人、オオウ
バユリの花の香りを楽しんでいる人、写真を撮
っている人など、参加者がそれぞれ自由に楽し
んでいる様子でした。全員怪我もなく予定通り
13 時 30 分ころ終了しました。9 月以降も各地
で観察会が続きますので参加をお願いし、解散
しました。

(高田敏文)

千歳市 秋の紋別岳観察会 2017/9/2

台風の前も気になるところでしたが、当日はうす曇りで風もなく観察会日和でした。

紅葉にはまだ早い時期ですが、秋の草花などは例年のように見られました。

ミソガワソウ、ヤマハハコ、エゾトリカブト、エゾクロクモソウ、ミヤマセンキュウやハナタデ、キンミズヒキ、ミズヒキ、ヤブマメ、ネジバナなどが咲いていました。

中腹からしばらくヒメノガリヤスの穂が続いていました。

シラカンバ、ダケカンバ、ウダイカンバの区

別、カエデの仲間、クサギやタラノキの花、オオカメノキやハナヒリノキの果実、キタコブシの赤みを増した果実もありました。

後足の裏が赤く羽の退化したミカドフキバツタもありました。

ニホンカナヘビやヒガシニホントカゲの幼体も見ました。

頂上からの眺めは、少しかすんでいましたが、まずまずの状態でした。

(谷口勇五郎)



参加者の声



札幌市「はまなすの丘」(2017/5/20)

札幌市 戸倉 倫

たまたま落ちていた自然観察会の予定表を拾ったことがきっかけで初めて観察会に参加させていただきました。

小さな頃は土日ともなると、父に連れられて石狩浜によく遊びに来ていました。大人になり、運転免許を取ると石狩浜はドライブコースの1つとなり、ある年はハマナス、次の年はアキグミ、その次の年はノハナショウブと訪れる時

た

期もバラバラで、ハマハタザオが一面に咲く頃に来る機会は今までありませんでした。今回参加して、石狩浜を知り尽くした指導員の方々のお話は丁寧でわかりやすく、全国的にも希少な場所でたくさんの花や鳥が見られることを初めて知りました。季節ごとに咲く植物のいい時期に、またこのような観察会があると嬉しいです。

小樽市「小樽自然の村」(2017/6/11)

えりも町 山科 静子

前夜の雨。当日の朝も雨。観察会が始まるころには雨は上がっていましたが残念な観察会

でした。

小樽市「奇跡のオタネ浜を歩く」(2017/6/18)

黒松内町 加藤 修

晴天で気持ちよく新川河口を歩く。エゾセン

ニュウ、オオヨシキリ、カワウ、ヒバリ、ウグ

イス(帰りはアオダイショウが路上に)の鳴き声、カモガヤ、ニセアカシアと植物も親切に教えていただきました。

石狩海岸、オタネ浜では、赤いハマナス、ハマヒルガオ、スカシユリ、コウボウムギ(オス、メス)、紫のハマエンドウと赤紫、ピンクと見事な浜の姿が見られました。

他方、オニハマダイコンという外来種は、アメリカからのものと聞き植生への影響が心配でした。

オタネ浜は、禁猟区ではない(新川は禁猟区)ので散弾銃の薬きょうが2個あって、鳥は大丈夫かと絶句でした。またこの浜は、すぐれた自

然環境(小樽の地名発祥の地のオタルナイ川の名残りの三日月型の沼がある)だけでなく松前藩の小樽内場所の運上屋があった所で、ニシン、サケ漁を行う集落が17世紀にあったという歴史的価値のある所と聞きました。

「奇跡の自然海岸」に風力発電の建設が計画されているそうですが、自然が守られるのか、人への健康影響はどうか懸念されます。日本海では寿都町、島牧村で風車が動いています。自然海岸が守られること、先住民族のアイヌの人達の姿も浮かび学びの観察会でした。

滝上町・白滝村「浮島湿原と白滝黒曜石」(2017/7/2)

遠軽町 今野淳子

今日は10年ぶりに見る浮島湿原の観察会だ。瑞々しい山々を越えてなつかしい湿原の入り口に着く。

何億年前の日高山脈層の流れが、この周辺の地層を創り出したことの説明にびっくりする。湿原の池塘は全くの生物と気候の移り変わり

で湿原を造り出し、水の流れは外から入ったものではない。

マが一輪ぼつんと池塘の輪を広げたところにあってびっくりする。辿りつく途中のエゾマツや小鳥の声、特にコマドリの声に耳を傾け、ツマトリソウ、マイヅルソウ、サルオガセの指導員の説明もわかり易かった。

ジオパークでは石器を作るときの人間の心の移り変わりの説明など、まったくの自然を人間の知恵で工夫し、素晴らしい道具を創り出した工程を説明してもらい、とても一日で深く考えさせられる楽しい時間をありがとう。

2017年フォローアップ研修会開催のご案内

観察指導員を対象とした標記研修会を全道2カ所で行います。とくに今年度、新たに指導員になられた方々は、積極的にご参加くださいますようよろしくお願いします。

【道央地区】

- ・日時 10月22日(日) 10:00 集合~12:00 解散
- ・場所 円山公園 南1条入り口横パークセンター前
- ・研修内容 テーマ「観察会を開くということ」

観察会を開催するにあたっての目的、場所選びからテーマ探し、リスク管理など観察会形式で園内を回ります。

- ・連絡先 山形誠一 TEL011-551-5481

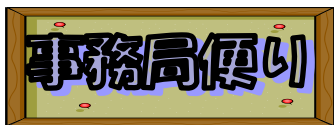
【道東地区】

- ・日時 11月5日(日) 10:00 集合~15:00 解散
- ・場所 ピンニの森(帯広市桜木町東2線 83-13)
- ・研修内容 ピンニの森観察+森の手入れ

森の動植物の観察とカラマツの間伐・枝打ち並びにササ刈りをします。

- ・連絡先 中村修一 090-6261-6311

- ・その他 昼食はピザ窯で焼いたピザ等を頂きます(参加費 500 円)。但し、昼から参加でも結構ですが、その場合、参加費はいりません。



☆第 528 回 NACS-J 自然観察指導員講習会が 9 月 30～10 月 1 日にかけて、帯広の森で 37 人が参加して開かれました。詳しくは中村指導員のレポートをご覧ください、今回の講習会を通じて本協議会の新会員として 14 人の方々が加入されました。高齢化等により会員の漸減が続

く中で、若い人を含めた新しい指導員を迎えることができたことは、大変、喜ばしい限りです。新会員の方々には、積極的に本会に関わって活躍されることを願っています。同時に会長、副会長、並びに理事も新会員の期待に応えるべく努力を、これを機会に一層強めてゆかねばならないと痛感しています。

☆今回の会報に同封されています「北海道自然観察協議会名簿作成についてのお知らせ」では、今年度の名簿作成に向けて会員の皆様の意向を把握したうえで作成したいという狙いで行うものです。名簿の様式は氏名、電話番号、郵便番号、住所、備考の欄を設けた従来スタイルで行う予定にしていますが、もしこのスタイルに異議ある会員がおられるなら Fax または郵送でお知らせ願います。

☆次号の 124 号の発行は、2018 年 3 月です。既に紹介しましたように本年の総会でこれまでの年 4 回の発行のところ、諸般の事情で 3 回にさせて頂くことでご了承を頂いたところです。会員の皆様との繋がりという点では、本会報が果たしている役割も少なからずあることを考慮すると、非常に残念ではありますが、止む得ないところでもあります。

会員の皆様のご協力の下で、以前の形に早く戻したいと念願しておりますので、何卒、ご理解とご協力の程、お願い申し上げます。

☆本協議会の会員で多額な寄付を頂戴した藤田惣一郎さんが、このほどご逝去されました。会員の皆様にお知らせいたしますとともに、心よりご冥福を申し上げます。

(編集部長)

会費や寄付は 郵便振替口座 02710-1-8768

会 計 杉本 泰子 063-0062 札幌市西区西町南 2 丁目 5-5

会費振込加入者名 北海道自然観察協議会 杉本 泰子

観察会保険料は 郵便振替口座 02770-9-34461

観察会担当会計 小川 祐美 047-0155 小樽市望洋台 3-13-5

Tel/Fax 0134-51-5216 E-mail streamy@estate.ocn.ne.jp

観察会報告書・資料は 観 察 部 山形 誠一 064-0946 札幌市中央区双子山 1 丁目 12-14

Tel/Fax 011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp

退会、住所変更の連絡は杉本 泰子 063-0062 札幌市西区西町南 2 丁目 5-5

Tel/Fax 011-664-9263 E-mail akibaresawayaka0087@yahoo.co.jp

投稿や原稿は 編 集 部 村元 健治 006-0552 札幌市手稲区星置 2-8-7-30

Tel/Fax 011-694-5907 E-mail cin55400@rio.odn.ne.jp

事故発生等緊急時はアスカ・リスクマネジメント 担当 本間氏 Tel 011-873-2655

表紙写真 山口 紘司



自然観察 2017 年 10 月 15 日／第 123 号 年 3 回発行
(会員の『自然観察』購読料と郵送料は会費に含まれています。)

発行 北海道自然観察協議会

編集 北海道自然観察協議会編集部